

2025年3月期 決算説明資料



株式会社オートバックスセブン

2025年5月12日

2025年3月期 連結業績結果 および 2026年3月期 連結業績計画

全体概況	P. 3
セグメント別業績	P. 5
オートバックス事業	P. 6
コンシューマ事業	P. 9
ホールセール事業	P. 10
拡張事業	P. 11
業績計画	P. 12

2025年3月期 通期の取り組み および 今後の取り組み

長期ビジョンと2024中期経営計画の概要	P. 19
2024 中期経営計画の進捗・トピックス	P. 21
中計の達成に向けて	P. 26
中長期戦略の方向性について	P. 30

参考資料	P. 33
------	-------

2025年3月期 連結業績結果
および2026年3月期 連結業績計画

管理管掌
平賀 則孝

既存車のメンテナンスおよび降雪による冬季用品需要の増加によりオートバックス事業が好調
M&Aに伴う一時的な費用を計上するも、連結子会社の増加が寄与し、増収増益

	2025年3月期				2024年3月期
	計画	実績	計画比	前期比	実績
連結売上高	2,403	2,495	+3.8%	+8.6%	2,298
売上総利益	834	883	+6.0%	+17.2%	754
売上総利益率	34.7%	35.4%			32.8%
販管費	714	762	+6.8%	+13.1%	674
営業利益	120	121	+1.1%	+51.4%	80
営業利益率	5.0%	4.9%			3.5%
経常利益	125	125	+0.1%	+54.6%	80
親会社株主に帰属する 当期純利益	77	81	+5.6%	+28.0%	63

※表示単位未満は切り捨て ※対売上比・前期比は円単位で計算

＜オートバックス事業＞

- ✓ 既存車のメンテナンス需要を背景に、タイヤ・オイル・バッテリーの小売および関連サービス工賃が伸長
- ✓ 前年と比較し、スタッドレスタイヤやタイヤチェーンなどの冬季用品が堅調

＜コンシューマ事業＞

- ✓ 4社を子会社化したことにより売上が増加
- ✓ 新規連結子会社の利益貢献と、既存事業の収益改善により赤字縮小

＜ホールセール事業＞

- ✓ 国内の小売業者への卸売取引が拡大
- ✓ 国内から海外への輸出取引が減少

(単位:百万円)		2025年3月期	2024年3月期(※1)	前期比	総括
オートバックス事業	総売上高	197,100	182,402	8.1%	降雪や車両メンテナンス需要により国内小売が好調。上期にFC加盟法人2社を子会社化したことにより販管費が増加するも、粗利率が向上し増収増益。
	売上総利益	71,444	61,162	16.8%	
	販管費	49,393	44,601	10.7%	
	営業利益	22,050	16,560	33.1%	
コンシューマ事業	総売上高	29,308	23,844	22.9%	Hondaの正規ディーラーを運営する会社や自社ローン型中古車販売事業を行う会社を子会社化。M&A関連費用が発生するも、既存事業も伸長し増収・営業赤字縮小。
	売上総利益	8,500	5,676	49.7%	
	販管費	9,348	6,973	34.1%	
	営業利益	▲847	▲1,297	－	
ホールセール事業	総売上高	35,548	35,361	0.5%	国内の小売業者向け取引が拡大したことに加え、降雪および車両メンテナンス需要によりホイールやオイルの卸売が堅調。一方で、海外卸売において国内からの輸出取引が減少し増収減益。
	売上総利益	7,063	7,266	▲2.8%	
	販管費	6,545	6,638	▲1.4%	
	営業利益	517	627	▲17.4%	
拡張事業	総売上高	9,108	8,293	9.8%	金利引き上げおよび出店の増加に伴い不動産収入が増加。
	売上総利益	1,365	1,319	3.5%	
	販管費	889	1,095	▲18.8%	
	営業利益	476	224	112.2%	
コーポレート(※2)	営業利益	▲10,070	▲8,105	－	

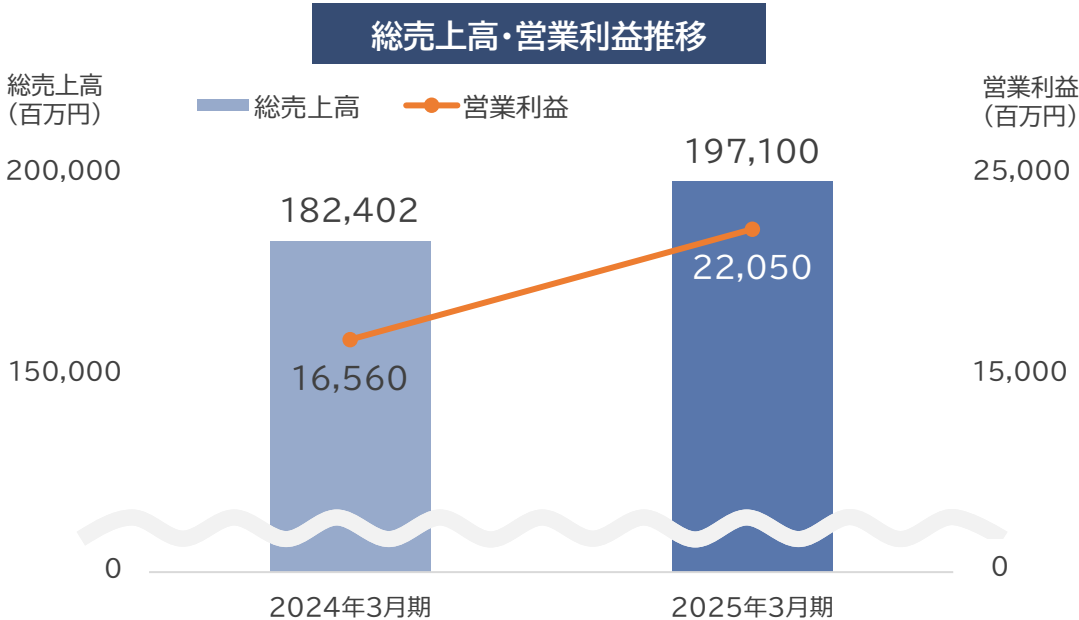
※表示単位未満は切り捨て ※前期比は円単位で計算

(※1) 2024年3月期は、変更後の報告セグメントの区分に組み替え済

(※2) 「コーポレート」は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費です

降雪や車両メンテナンス需要により国内小売が好調
上期にFC加盟法人2社を子会社化したことにより、販管費が増加するも粗利率が向上し増収増益

- 国内オートバックス
＜小売＞車両メンテナンス需要により、タイヤ・オイル・バッテリーが好調
降雪の影響でタイヤチェーンなどの冬季用品が好調。中古車の単価上昇により車買取・販売が伸長
＜卸売＞下期に小売が好調だった影響で、卸売も前年同水準に回復
- 海外小売
＜フランス＞昨年2月に2店舗を閉店した影響で売上が減少
＜シンガポール＞既存車両のメンテナンス需要拡大を取り込み、ピットサービスが好調

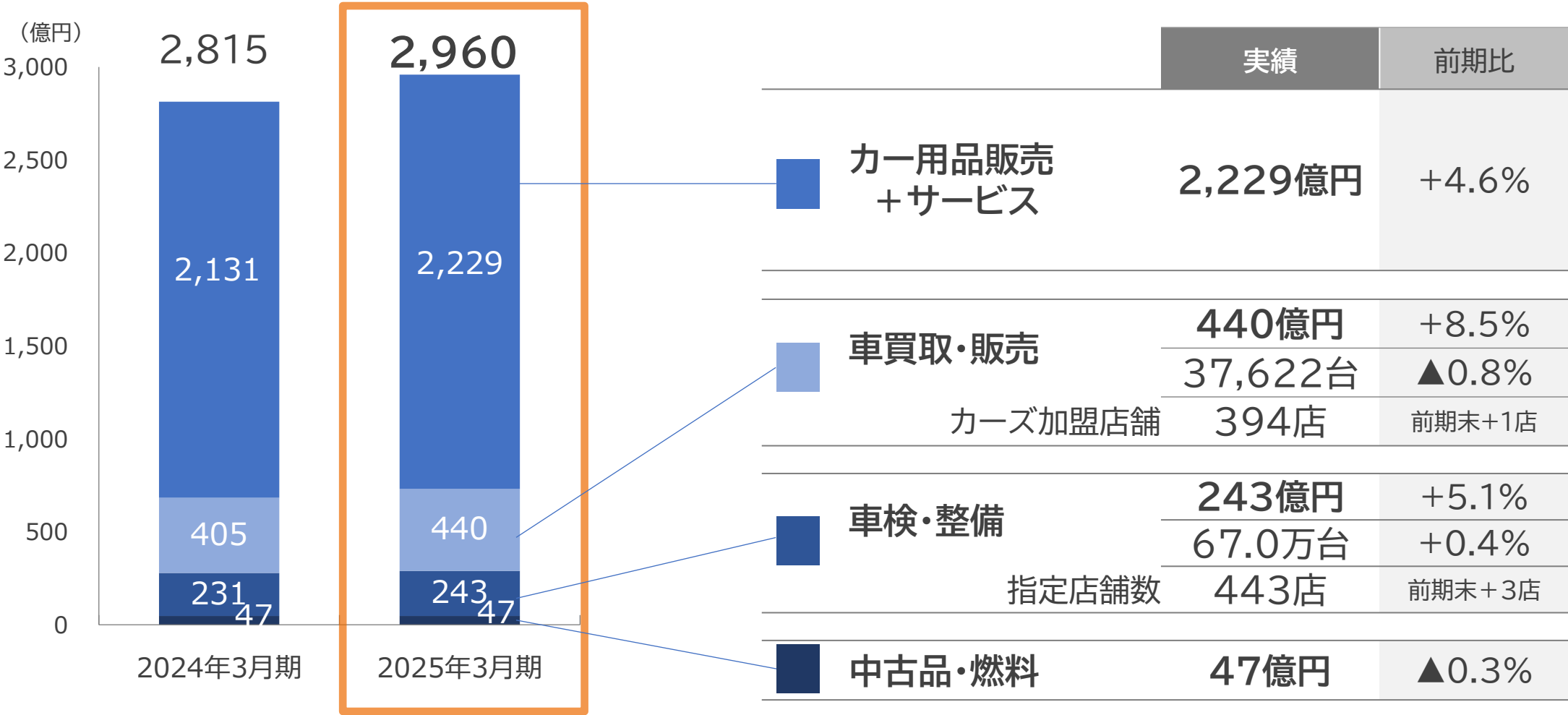


※総売上高は、セグメント間の内部売上高を含む

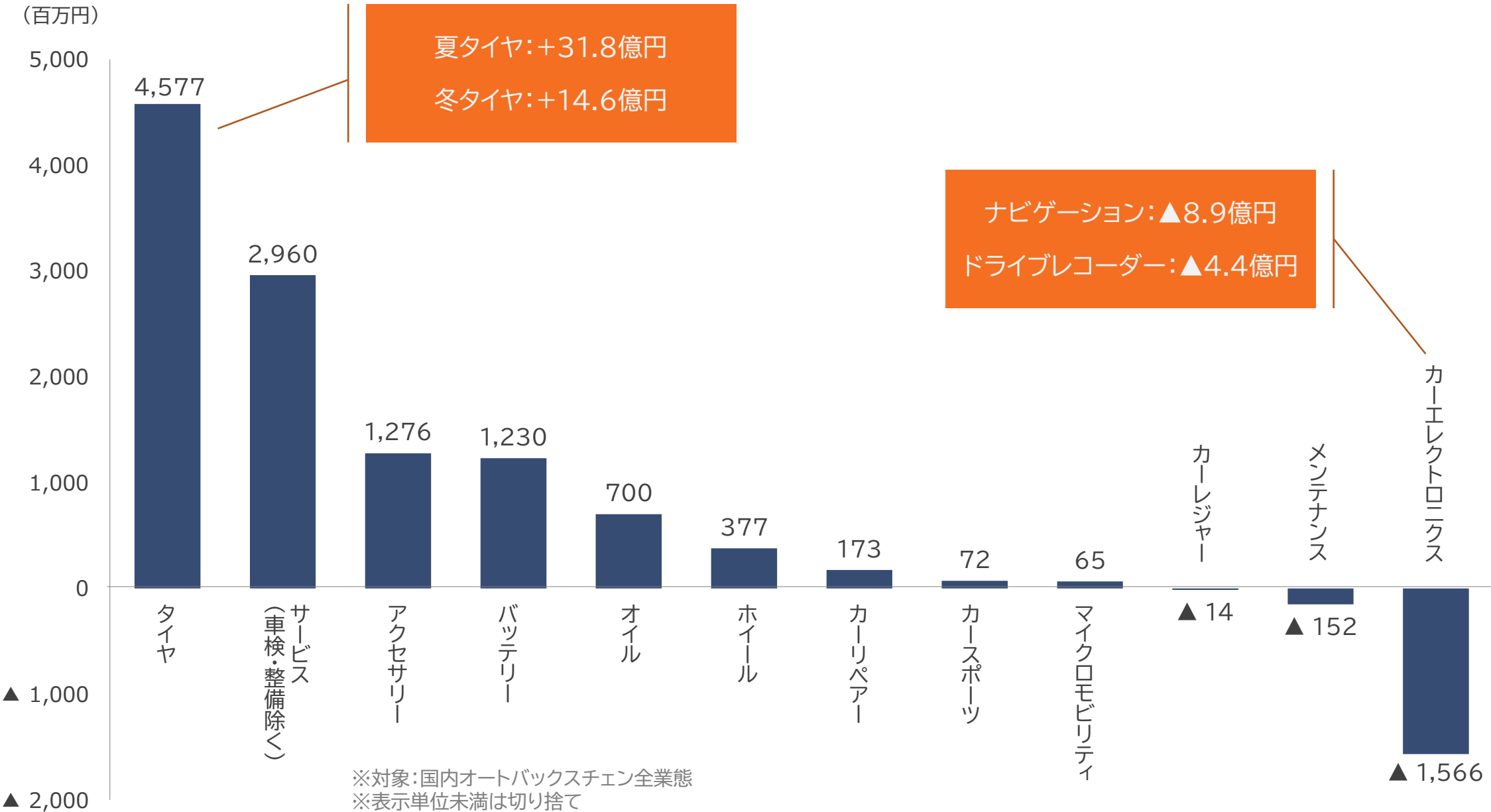
売上内訳			
(百万円)	2025年3月期	2024年3月期	前期比
売上高 ※1	192,130	177,326	+8.3%
小売	94,586	79,810	+18.5%
国内	84,854	69,575	+22.0%
海外	9,731	10,234	▲4.9%
卸売 ※2	97,543	97,515	+0.03%

※1 セグメント間の内部売上高を除く
※2 卸売売上高はロイヤリティを含む

国内店舗売上高 **2,960億円** 前期比 **+5.1%**



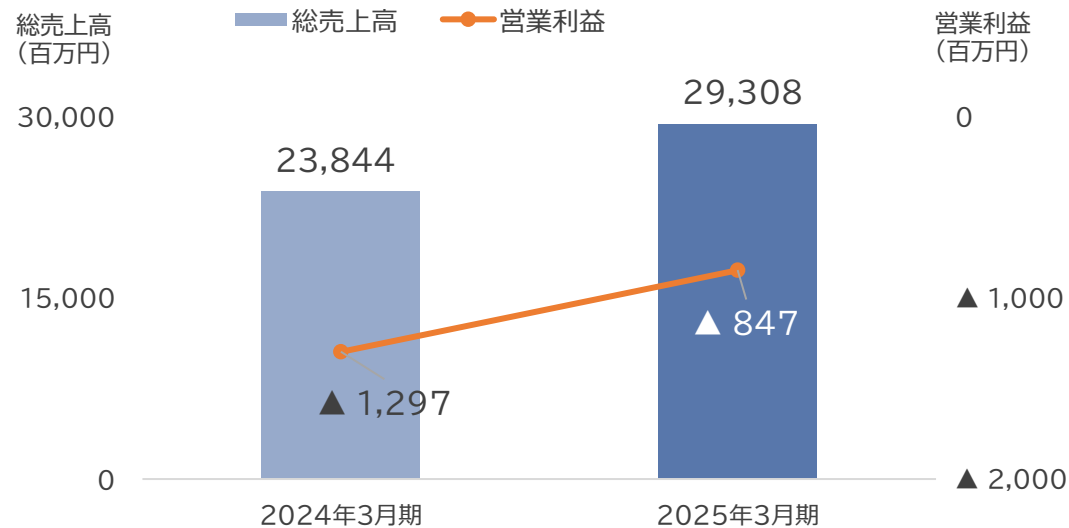
※対象：国内オートバックスチェーン全業態。ただし、車買取・販売には、コンシューマ事業の売上を一部含む
※表示単位未満は切り捨て ※前期比は円単位で計算



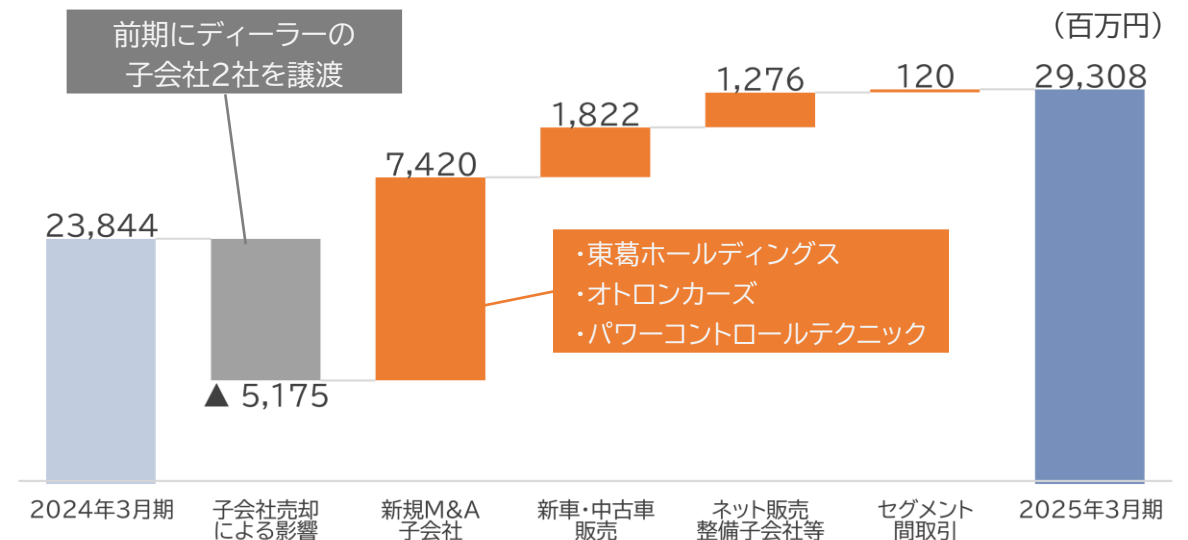
4社を子会社化したことにより、M&A関連費用が発生するも利益改善 既存事業も伸長し、増収・営業赤字縮小

- 新規M&A子会社
Hondaの正規ディーラーや自社ローン型中古車販売事業が増収に寄与
- 新車・中古車販売
新車生産台数減少の影響を受けるも、中古車は単価上昇や買取台数の増加によりオークションへの販売が好調に推移
- ネット販売
販売促進施策に加え、公式通販サイトのリニューアルや取扱商品の拡充が奏功し売上が増加

総売上高・営業利益推移



総売上高増減要因

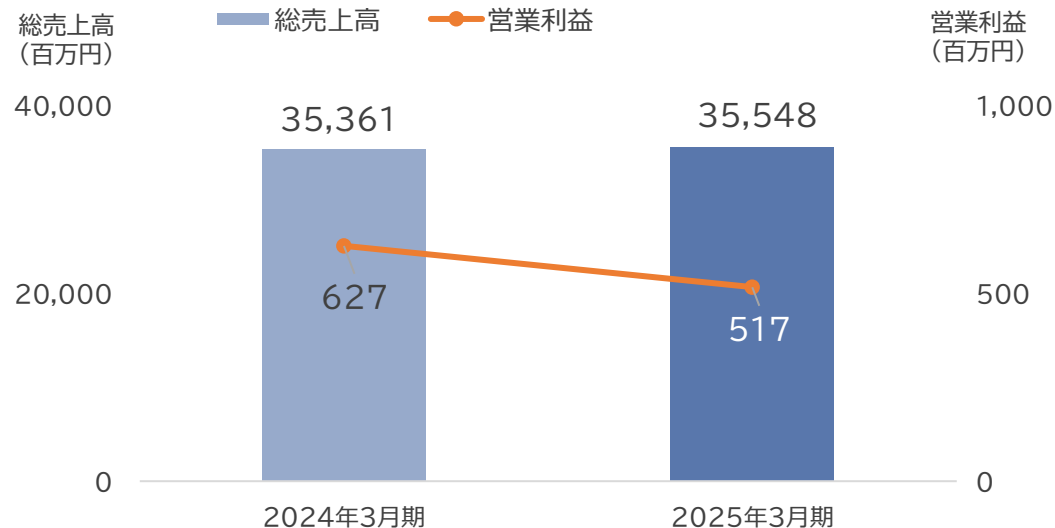


※総売上高は、セグメント間の内部売上高を含む

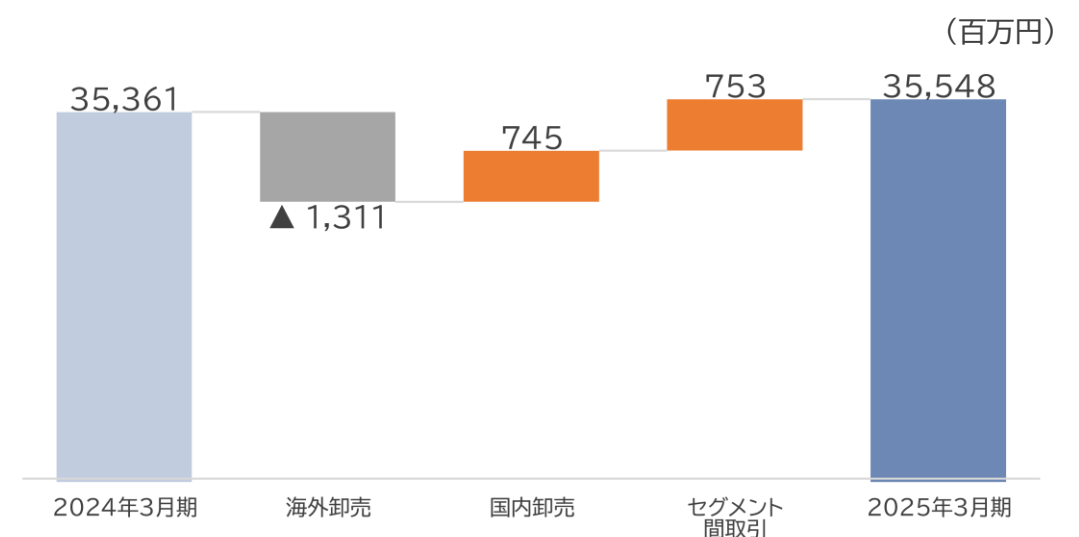
国内においては小売業者向け取引が拡大した一方、 海外卸売において国内からの輸出取引が減少し増収減益

- 国内卸売
日産自動車の車種専用アイテムの販売が伸長。セブン-イレブン店舗にて、プライベートブランド「AQ.」の販売を開始
また、降雪や車両メンテナンス需要を背景に、ホイールやエンジンオイル等の卸売が堅調
- 海外卸売
＜日本＞輸出取引が減少
＜オーストラリア＞インフレや金利上昇を背景に売上減少
＜マレーシア＞オーソライズドディーラーが増加し、売上増加
＜中国＞日本への輸出が拡大し、売上増加

総売上高・営業利益推移



総売上高増減要因

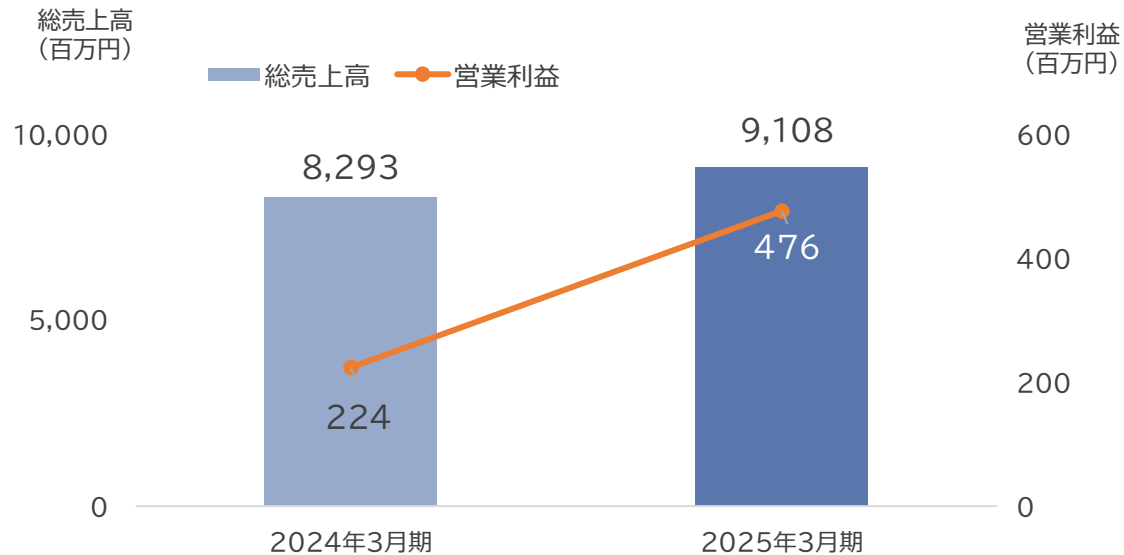


※総売上高は、セグメント間の内部売上高を含む

ファイナンス関連や不動産収支が好調

- ファイナンス
ローン金利の引き上げやキャッシュレス化の進展に伴い
クレジット収入が増加
- 不動産収支
出店や家賃改定により不動産収入が増加

総売上高・営業利益推移



※総売上高は、セグメント間の内部売上高を含む

トピックス

スーパーオートバックスMITAKA内に マイクロモビリティ専門店をオープン

- ・ 2024年10月よりマイクロモビリティ専門店の営業開始
- ・ 商品の説明や試乗、登録手続きから納品まで専属のスタッフが対応



店舗の遊休地にコインランドリーをオープン

- ・ スーパーオートバックス市川の駐車場に24時間無人営業のコインランドリーをオープン
- ・ 地域住民や来店客の利便性向上を目指しつつ遊休地を有効活用



プラス要因

- ✓ 車齢の長寿化にともなう車検・整備、メンテナンスの需要が増加
- ✓ 新規出店による拠点の拡大

マイナス要因

- ✓ 原材料やエネルギーコストの高騰、円安にともなう物価高による消費の変化
- ✓ お客様の購買行動の変化による販売チャネル間の競争激化

国内店舗売上高計画 前期比

計画	上期	下期	通期
既存店	+3.8%	+4.6%	+4.2%
全店	+3.9%	+5.3%	+4.6%

※対象：国内オートバックスチェーン全業態の売上高

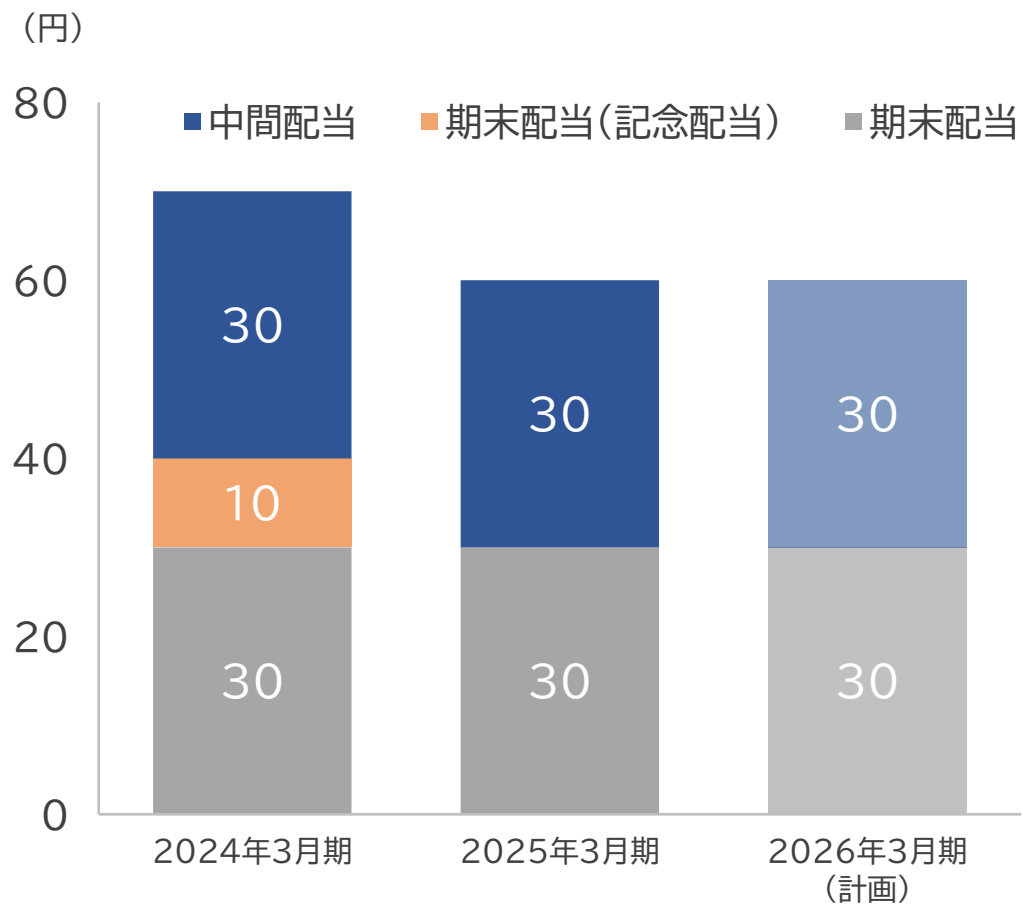
	2025年3月期	2026年3月期【計画】					
	通期実績	上期	前期比	下期	前期比	通期	前期比
(単位:億円)							
連結売上高	2,495	1,262	+14.4%	1,497	+7.6%	2,760	+10.6%
売上総利益	883	447	+16.0%	529	+6.5%	977	+10.6%
売上総利益率	35.4%	35.5%		35.4%		35.4%	
販管費	762	417	+15.8%	424	+5.8%	842	+10.5%
営業利益	121	30	+19.5%	105	+9.2%	135	+11.3%
営業利益率	4.9%	2.4%		7.0%		4.9%	
経常利益	125	30	+10.8%	105	+7.0%	135	+7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	17	+3.8%	65	+0.1%	82	+0.8%
ROE	6.2%					6.2%	
ROIC	5.6%					5.7%	

※表示単位未満は切り捨て
※対売上比・前期比は、円単位で計算

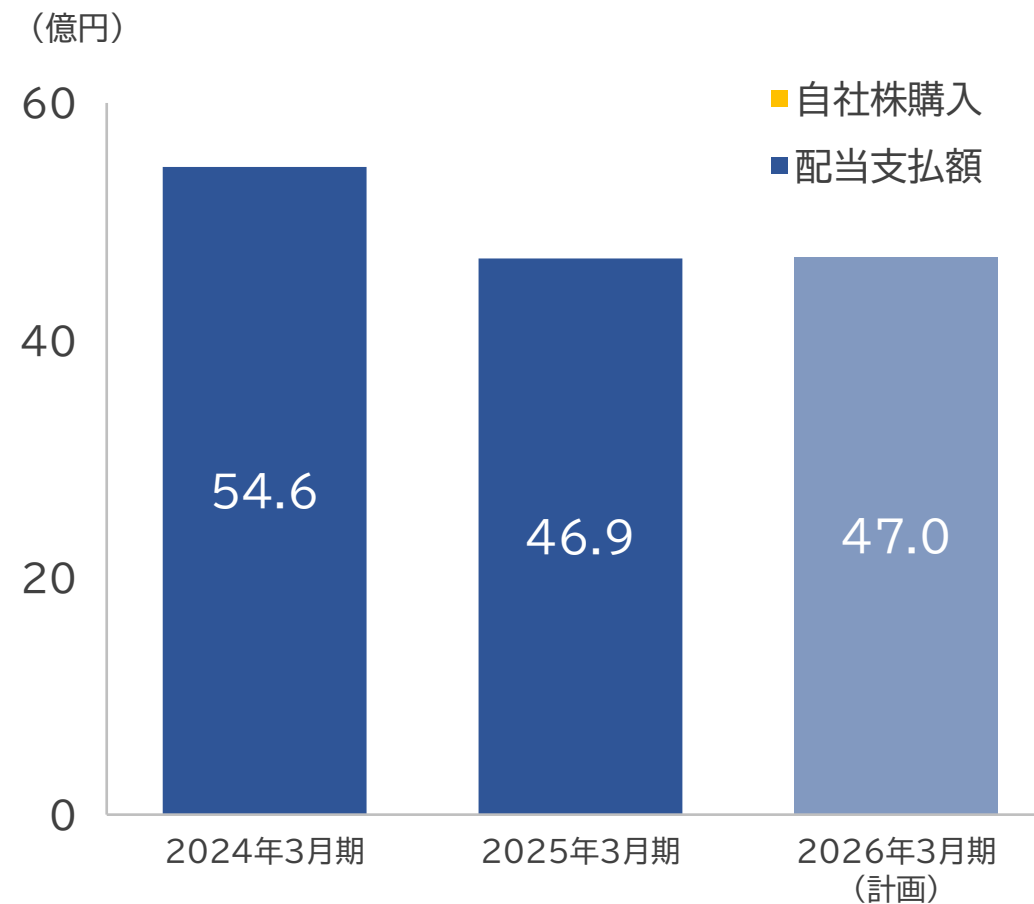
		2025年3月期	2026年3月期【計画】			
(単位:百万円)		通期実績	上期	下期	通期	前期比
オートバックス事業	総売上高	197,100	94,640	107,250	201,890	+2.4%
	営業利益	22,050	8,670	13,580	22,250	+0.9%
コンシューマ事業	総売上高	29,308	21,610	27,260	48,870	+66.7%
	営業利益	▲847	▲310	360	50	—
ホールセール事業	総売上高	35,548	15,450	22,480	37,930	+6.7%
	営業利益	517	▲150	920	770	+48.7%
拡張事業	総売上高	9,108	4,260	4,590	8,850	▲2.8%
	営業利益	476	250	240	490	+2.9%
コーポレート	営業利益	▲10,070	▲5,460	▲4,600	▲10,060	—

※表示単位未満は切り捨て
※前期比は円単位で計算

一株当たり配当金の推移

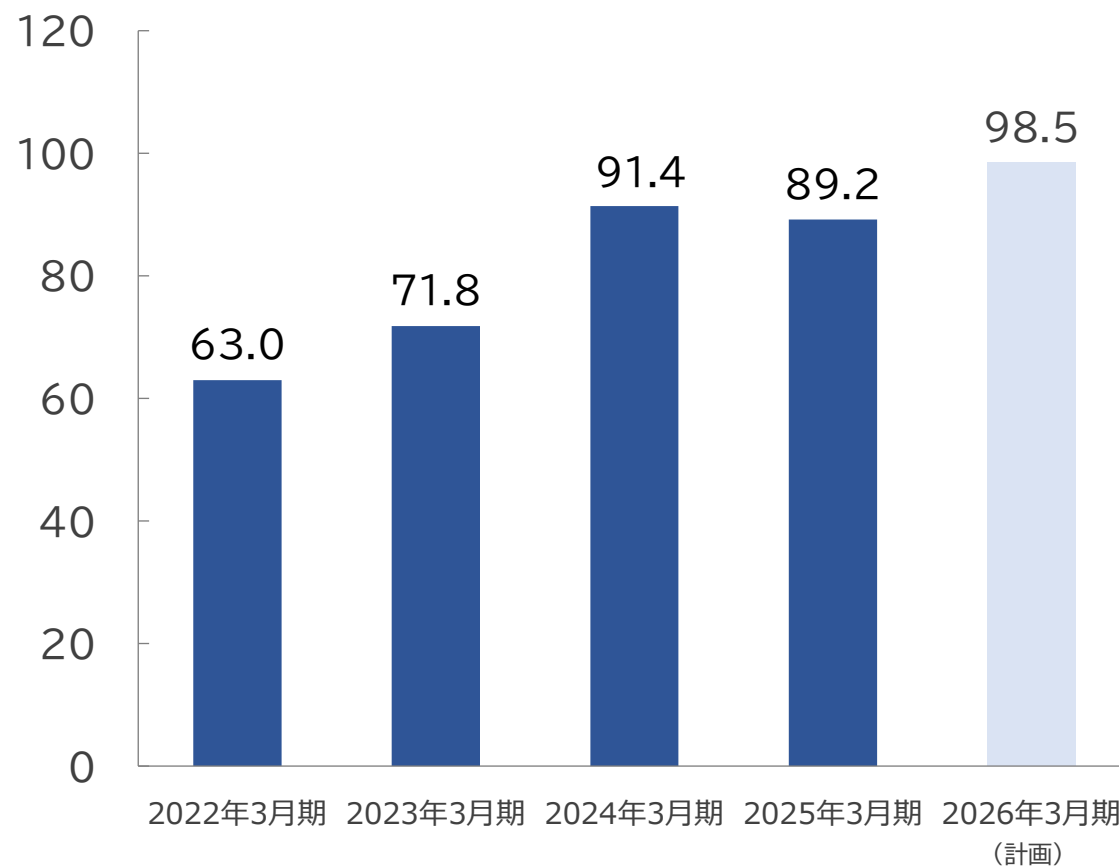


配当と自社株買い金額



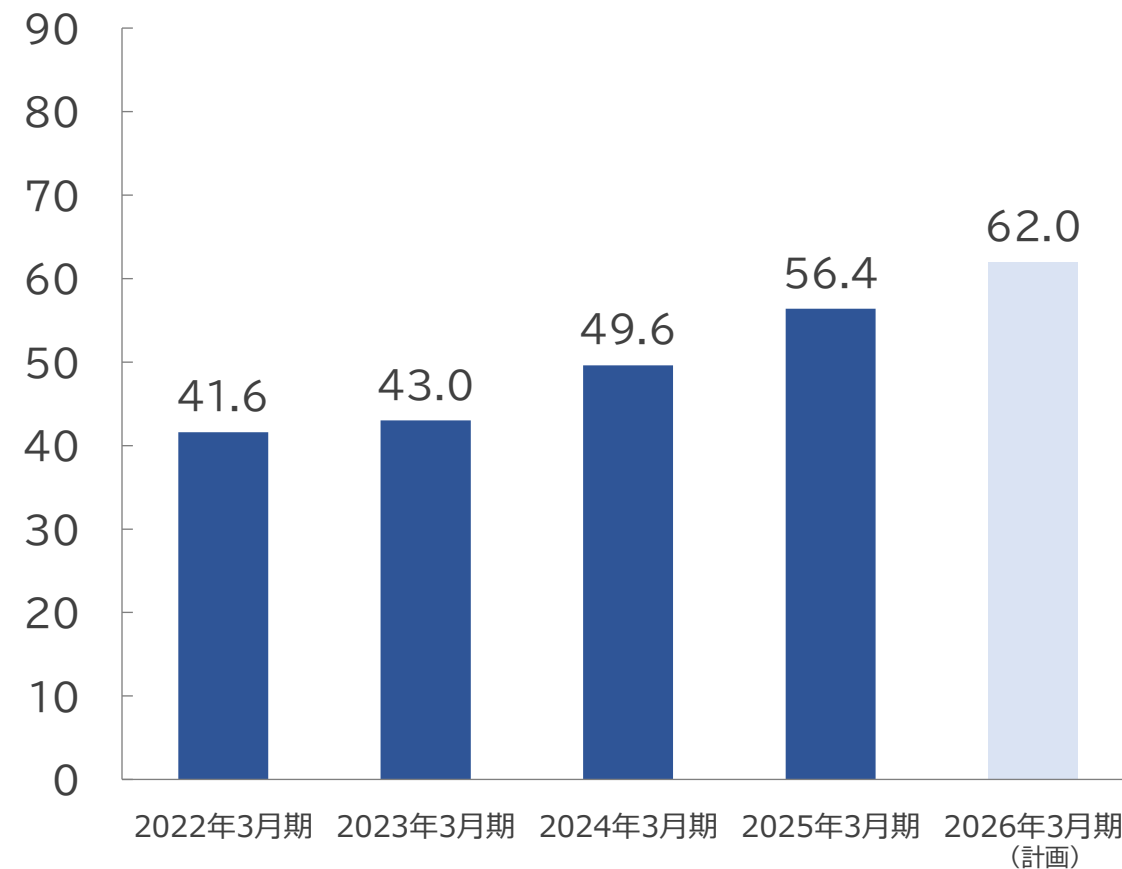
設備投資

(億円)



減価償却費

(億円)



2025年3月期 通期の取り組み および今後の取り組み

代表取締役 社長
堀井 勇吾

1. 長期ビジョンと2024中期経営計画の概要
2. 2024中期経営計画の進捗・トピックス
3. 中計の達成に向けて
4. 中長期戦略の方向性について

1. 長期ビジョンと2024中期経営計画の概要

■長期ビジョン「Beyond AUTOBACS Vision 2032」の概要

環境変化に適応し、事業領域の拡大と新たな事業の創造に挑戦し続ける
そして2032年度に、連結売上高5,000億円を目指す

Beyond AUTOBACS Vision 2032

パーパス
社会の交通の安全とお客様の豊かな人生の実現

進化の方向性
「出かける楽しさ」を提案し続ける会社へ

自動車産業を取り巻く環境は、
100年に一度といわれる大きな変革期



連結売上高
5,000億円

事業成長のイメージ

- 新たな事業の創造
- 車買取・販売
- 車検・サービス
- カー用品販売

連結売上高
2,362億円

連結売上高
5,000億円

非連続の
イノベーション

連続的成長

2022年度 カー用品販売 車検サービス 車買取・販売 新たな事業の創造 2032年度

1. 長期ビジョンと2024中期経営計画の概要

■2024 中期経営計画 Accelerating Towards Excellence の概要

新たな方向性

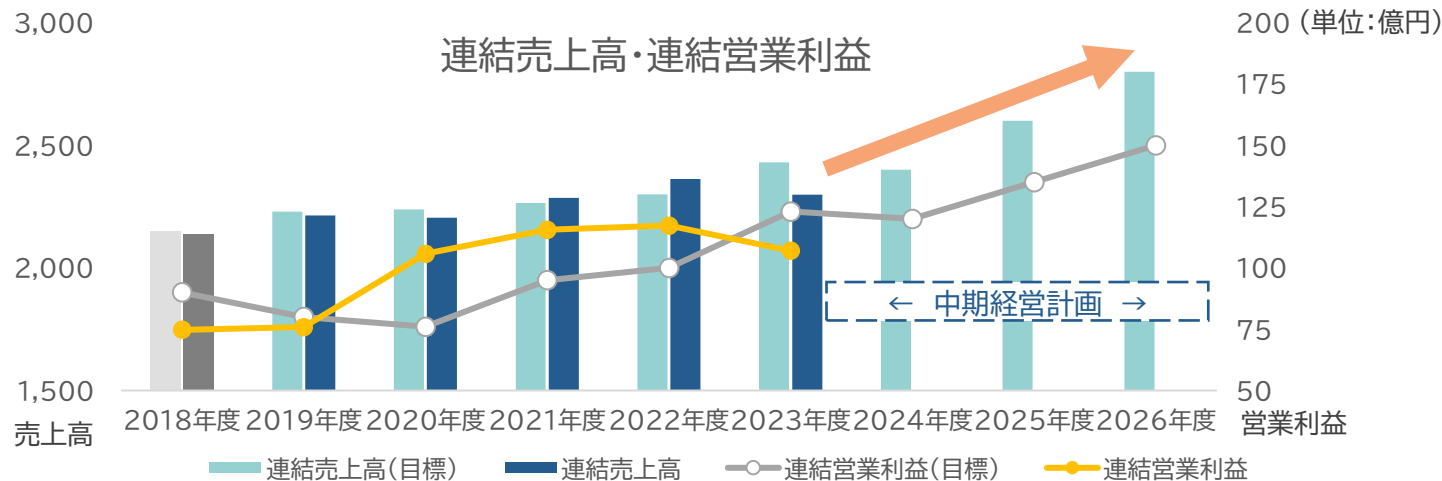
お客様にとっての「モビリティライフのインフラ」をグローバルで目指す

1. 最も得意とする小売りと卸売りの2軸に集中し強化する体制に変える
2. 長期ビジョンを実現するための周辺領域への挑戦も行う
3. 利益水準をもう一段押し上げつつ、安定的な還元を実現する

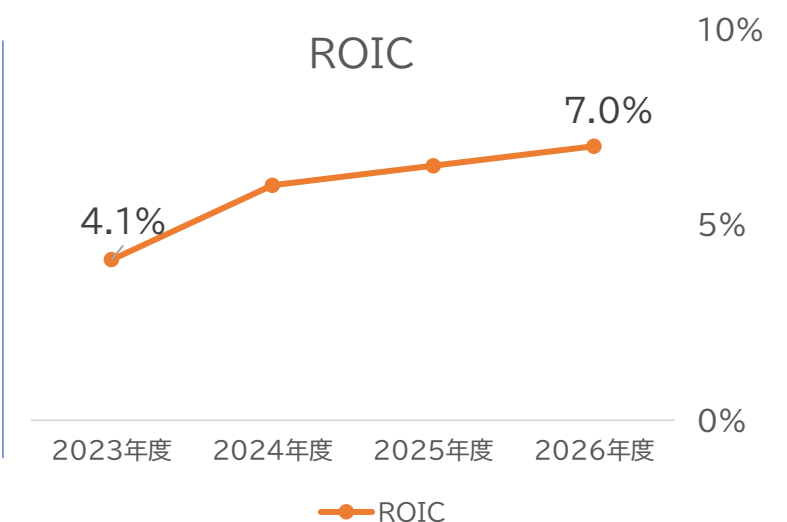
新たな方向性を実現するための戦略

- ① モビリティライフを支え続ける「タッチポイントの創出」
- ② モビリティライフに合わせた「商品・ソリューションの開発と供給」
- ③ モビリティライフの変化に対応した「新たな事業ドメインの設定」

2026年度 経営目標



※2023年度 営業利益: チェンパッケージ変更による一時的な減額(▲約30億円)を除く



推進体制と組織再編

推進体制

- ・ 部門/子会社を横断したタスクチームの組成により全社的な推進力を向上
- ・ 次世代の経営を担う若手メンバーにより計画策定から実行まで一貫して推進

組織再編

- ・ 中計方針に合わせ報告セグメントを変更
- ・ 事業の分社化によりポートフォリオ管理体制を強化
- ・ 執行役員レイヤーを廃止する経営執行体制の変更

新セグメント	事業内容
オートバックス事業	国内外のオートバックス店舗を運営する子会社および当社からオートバックス店舗への卸売り
コンシューマ事業	オートバックス事業以外の小売り (ディーラー、中古車の買取・販売、ネット販売等)
ホールセール事業	オートバックス事業以外の卸売り (ライフスタイルブランドに代表するプライベートブランド等)
拡張事業	上記以外の周辺事業 (ファイナンス、物件・立地開発、EVソリューション等)

2. 2024中期経営計画の進捗・トピックス

① タッチポイントの創出

2024年度は「117」の新規拠点を拡大

- ・ オートバックスの新規出店 13店舗
- ・ 新ストアブランドの出店 3店舗
- ・ M&Aによる拠点拡大 101店舗 ※M&A実施時点の店舗数



8月

- ・ 中古車販売を展開する
オトロンカーズ株式会社を子会社化

10月

- ・ Honda正規ディーラーを展開する
株式会社東葛ホールディングスを子会社化

1月

- ・ 九州を中心に73店舗(FC含む)
を展開する株式会社ビーラインを
子会社化

3月

- ・ AUTO IN 車検・タイヤセンター
熊本玉名店オープン

② 商品・ソリューションの開発と供給

価格競争力強化への取り組み

- ・ チェン本部人員を4割減し、店舗などへ再配置
- ・ 商品調達をはじめとする本部機能を統廃合

	2023/4/1	2025/4/1	差
チェン本部	415名	239名	▲176

顧客満足につながる全店統一施策の実施

- ・ 安心ピットカメラの全店導入の推進
- ・ 基本研修とピットサービスなどの専門研修の充実



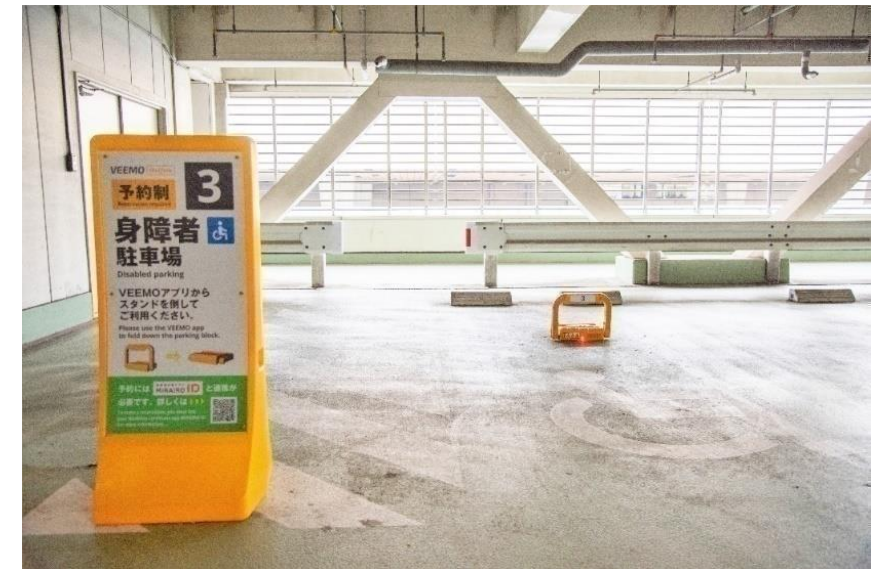
③ 新たな事業ドメインの設定

新規事業の創出へ向けた取り組み

障害者等用駐車スペースの「不適切利用」を防止するサービスを開始

障害者等用駐車スペースの事前予約が可能となるソリューション「VEEMO Welfare(ビーモ ウェルフェア)」を
成田国際空港株式会社へ導入

社会課題の解決に取り組む



※ 2025年5月下旬より運用開始予定

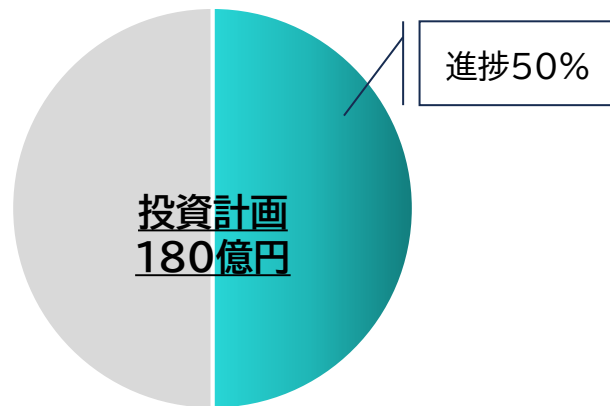
キャピタルアロケーション

投資実績および経営指標の推移

- ・ 中計初年度より積極的な設備・M&A投資を実施
- ・ ROIC、ROEともに改善も、PBRに課題を残す

投資

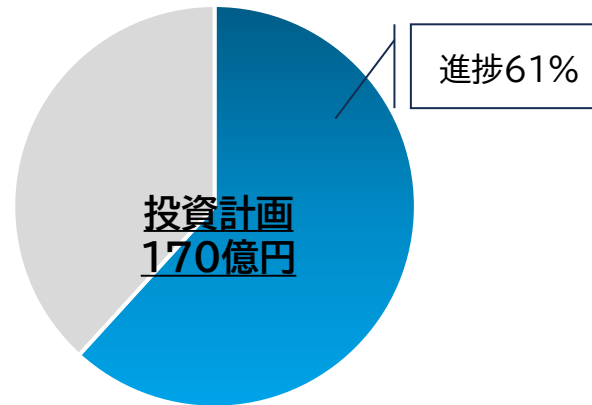
設備投資



■主な内訳

・新規出店	25億円
・S/B R/L増改築	3億円
・土地	24億円
・情報化投資	12億円
・その他	23億円

M&A投資

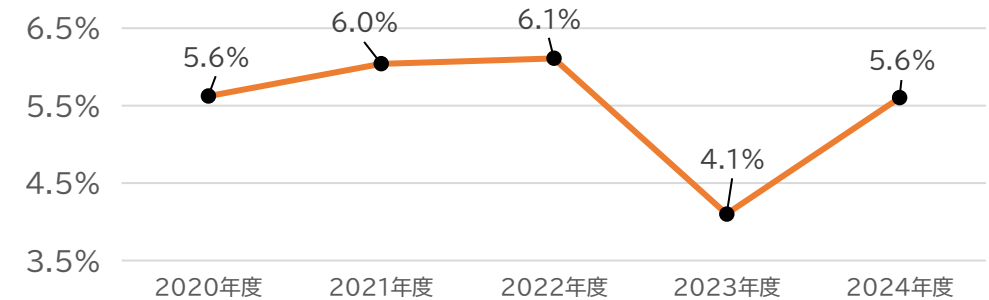


■主な内訳

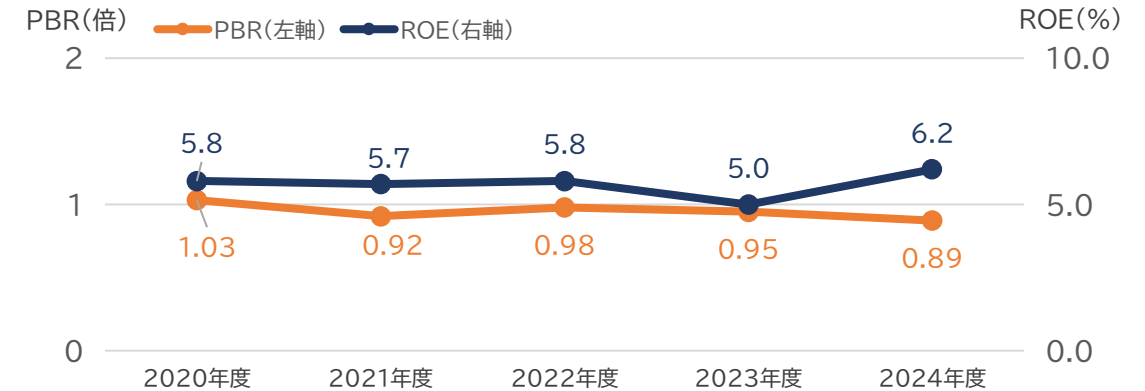
・オトロンカーズ(株)
・(株)東葛ホールディングス
・ビーライングループ 等

※M&A投資額の合計は、単体投資額から、買収時に対象会社が保有する現預金を差し引いた連結ベースでの投資キャッシュフローから算出

ROIC



PBR・ROE



※PBR:各期末株価÷1株当たり純資産
2024年度は、2025年3月末の株価:1,509円、1株当たり純資産1,679.29円で試算

■連結営業利益150億円の達成に向けて

1. タッチポイントの創出

- ・ 拠点と卸売先の拡大によるスケールメリットの増強

2. 商品・ソリューションの開発と供給

- ・ 組織と機能の統廃合によるコスト削減/価格競争力の強化

3. 新たな事業ドメインの設定

- ・ 事業シナジーを創出する資本業務提携の推進

【数値計画（連結）】

売上高	2,760億円
-----	---------

営業利益	135億円
------	-------

経常利益	135億円
------	-------

親会社株主に帰属する 当期純利益	82億円
---------------------	------

ROE	6.2%
-----	------

■ 環境・社会に配慮した取り組みの充実

非財務目標	KPI	2024年度 実績	2030年度 目標
脱炭素社会の実現に向けた 安全・安心なEV普及の推進	急速充電器設置	13店舗	43店舗
	EV車検の推進(車検台数)	1,136台/年	3,440台/年
	EV販売の推進(販売台数)	302台/年	2,500台/年
環境配慮型店舗の設置によるCO2の削減	環境配慮型店舗の推進	103店舗	140店舗
環境配慮型ビジネスの推進	環境にやさしい商品開発	298商品	300商品
サーキュラーエコシステムの実現	オイル缶削減 (量り売りオイル販売比率向上)	▲5万缶(削減)	▲26万缶(削減)

■ 人事中期方針

重点投資分野	KPI	2024年度 実績	2030年度 目標
人材育成・リスクリング	データ分析人材の育成	教育受講者183名	320名
	2級整備士の確保と育成	1,804名	1,100名
ダイバーシティ&インクルージョン	女性役職者(課長以上)比率の向上	7.5%	18.0%
リソース・タレントマネジメント	女性従業員比率	18.1%	30.0%
	男性育休取得の推進	51.7%	100.0%
エンゲージメント向上	従業員エンゲージメント(旧いきいき度)	2.6	3.0

非財務目標:整備士の地位向上と育成

外国人スタッフの育成と定着

—「自動車整備分野特定技能2号評価試験」対策講座を開催—

- ・ 受講者全員が「自動車整備分野特定技能2号評価試験」に合格
- ・ 本試験は、外国人自動車整備士の長期定住が可能となる難関試験
- ・ 外国人スタッフの定着促進と整備士育成で、整備士人材不足の解消を図る



非財務目標:交通事故ゼロへの取り組み推進

「令和7年春の全国交通安全運動」に合わせて無料安全点検キャンペーンを実施

- ・ 全国交通安全運動に合わせて、Vポイントがもらえる安全点検キャンペーンを実施
- ・ 全国のオートバックスグループ店舗では、タイヤの空気圧等の無料点検を常時実施



カー用品販売業から、身近なメンテナンス拠点「総合モビリティアフター業」へ

■長期ビジョン国内KPI目標

	2032年度目標	2024年度実績
グループ店舗数	<u>1,300</u> 店舗	1,152 店舗
車検台数	<u>100</u> 万台	69 万台
車買取・販売台数	<u>15</u> 万台	4.3 万台

※本KPIの目標および実績の対象は、オートバックスセブングループ（単体+子会社）とオートバックスフランチャイズチェーン加盟法人です。

■オートバックスセブン経営理念

人とモビリティの未来を、もっと楽しく、もっと自由に。

オートバックスセブンは、
個性を尊重し、多様な移動の喜びを支え、
人とモビリティが調和する社会を創造します。

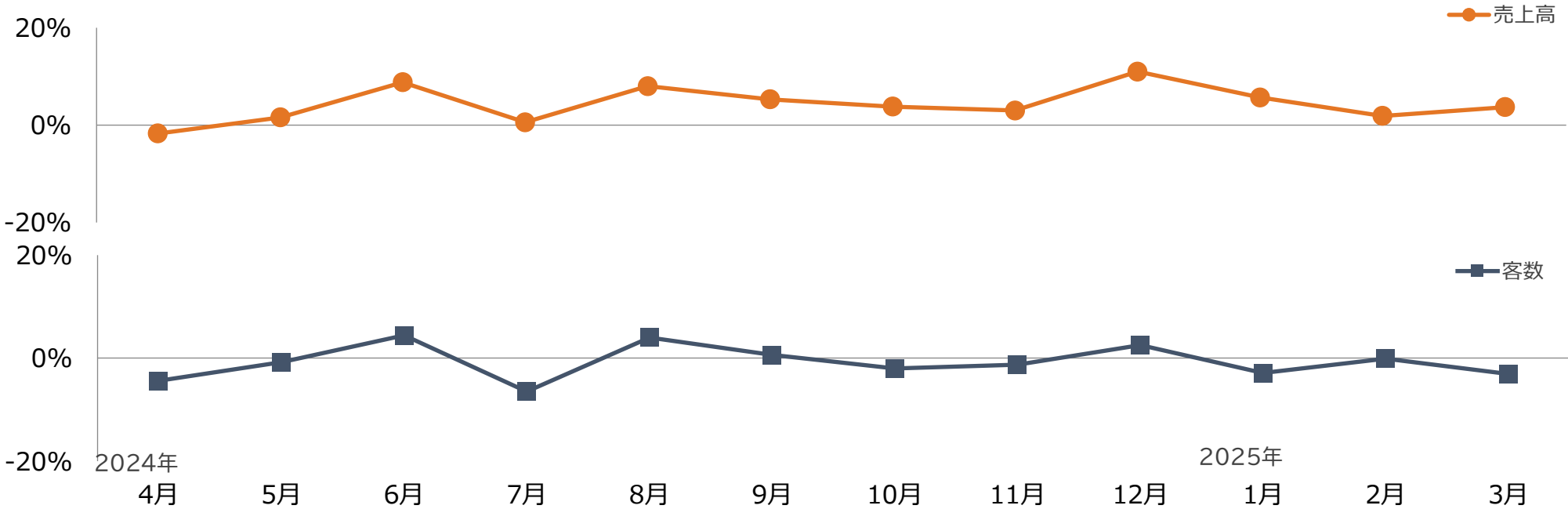
台数合計 37,622台 前期比 ▲0.8%

業販	
内訳	売上台数
本部へ売却	1,160台
本部へ売却を委託	6,839台
店舗から直接	19,874台
業販 合計	27,873台

小売	
内訳	売上台数
中古車	6,699台
新車	3,050台
小売 合計	9,749台

※オートバックス事業およびコンシューマ事業における車買取・販売

既存店 売上前期比 +4.4% 客数前期比 ▲0.9%

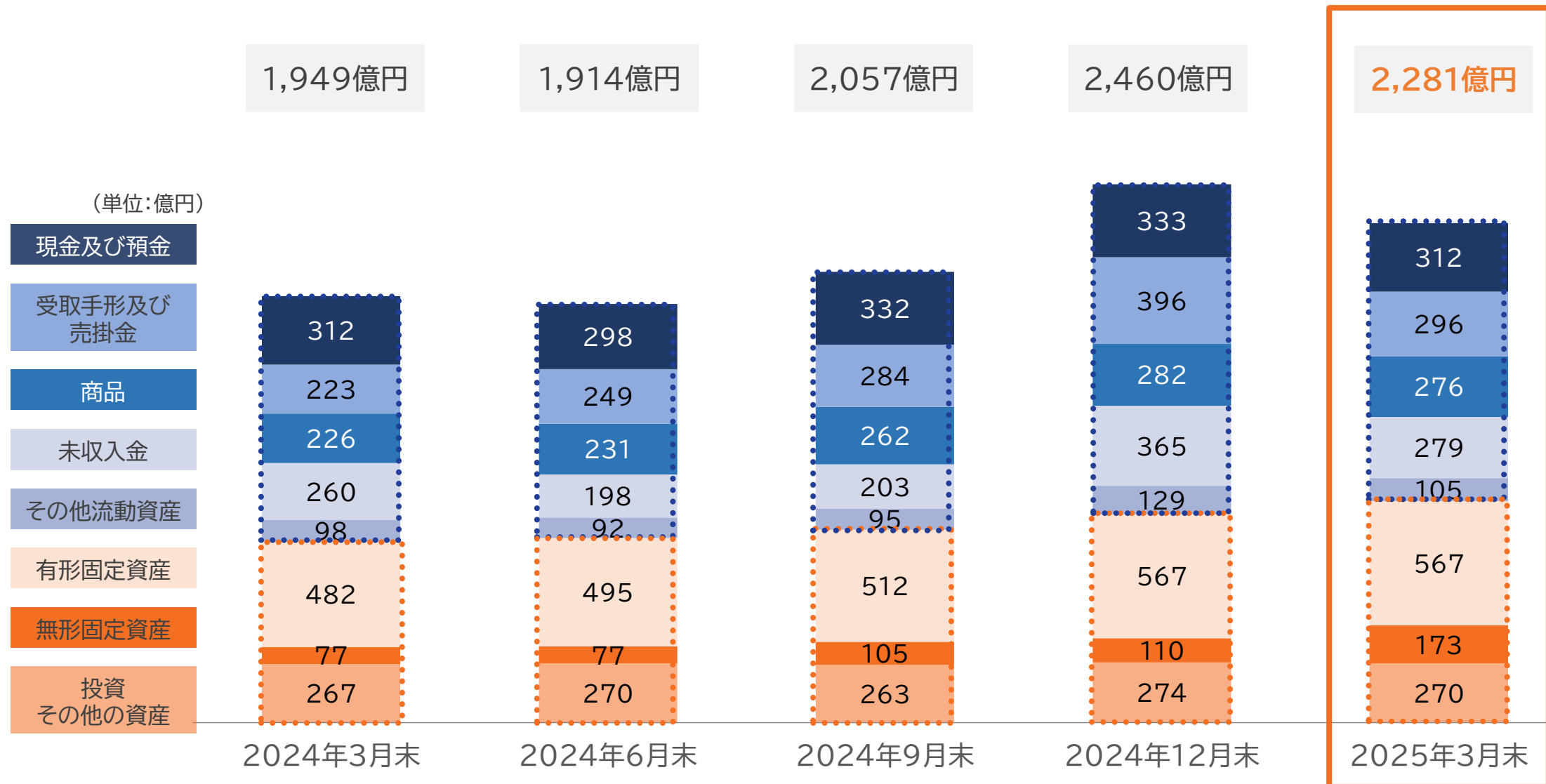


国内	24/3末	2025年3月期					25/3末
		上期(実績)		24/9末	下期(実績)		
		新店	退店		新店	退店	
オートバックス	496	+8		504	+5		509
オートバックスガレージ	1			1			1
スーパーオートバックス	72	-1		71			71
A PIT AUTOBACS	2			2			2
オートバックスセコハン市場(※1)	18(15)	-1		17(14)	+1		18(15)
Smart+1(※2)	10(8)	+2		12(9)	+2		14(11)
オートバックスエクスプレス	11			11			11
オートバックスカーズ(※1)	393(391)	+1	-1	393(391)	+1		394(391)
国内計	1,003(414)	+11	-3	1,011(414)	+9	—	1,020(417)

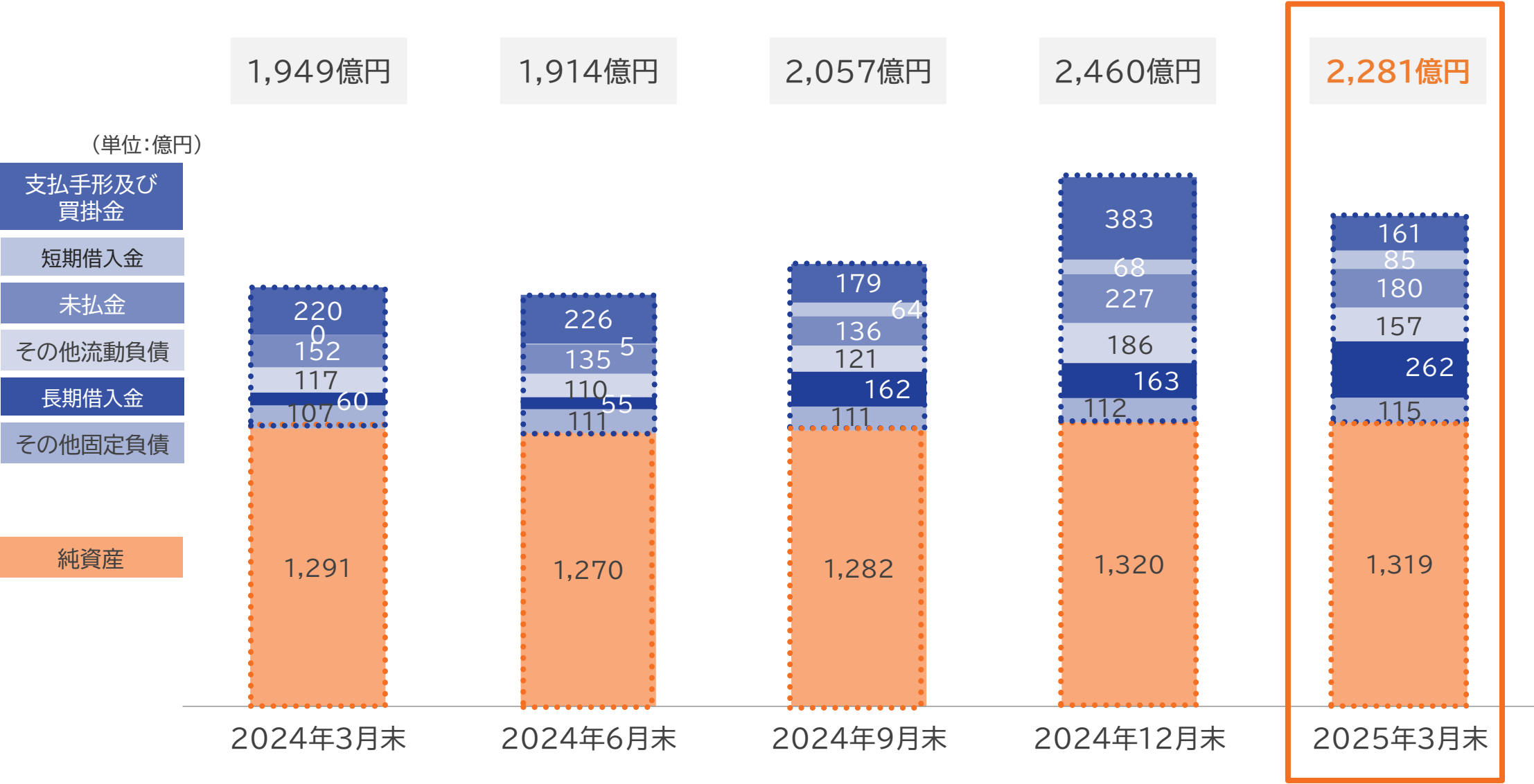
海外	24/3末	2025年3月期			25/3末
		上期 (実績)	24/9末	下期 (実績)	
台湾	6		6		6
シンガポール	2		2		2
タイ	82	+22	104	+18	122
フランス	8		8		8
マレーシア	5		5	-1	4
フィリピン	6		6		6
海外計	109	+22	131	+17	148

※2025年3月期の期首より併設店およびインショップを含んだ店舗数に変更し記載しております

※1()は内、併設店の数
※2()は内、インショップの数



※表示単位未満は切り捨て



※表示単位未満は切り捨て

(単位:百万円)		1Q	上期	3Q累計	通期
オートバックス事業	総売上高	43,766	89,290	150,702	197,100
	売上総利益	15,418	32,083	53,815	71,444
	販管費	11,920	24,203	36,871	49,393
	営業利益	3,497	7,880	16,944	22,050
コンシューマ事業	総売上高	4,907	10,223	20,018	29,308
	売上総利益	1,246	2,594	5,446	8,500
	販管費	1,531	3,427	6,274	9,348
	営業利益	▲285	▲833	▲827	▲847
ホールセール事業	総売上高	7,623	16,070	27,235	35,548
	売上総利益	1,445	3,167	5,448	7,063
	販管費	1,615	3,274	4,969	6,545
	営業利益	▲169	▲106	478	517
拡張事業	総売上高	2,201	4,464	6,882	9,108
	売上総利益	377	761	1,187	1,365
	販管費	209	456	779	889
	営業利益	167	304	408	476
コーポレート	営業利益	▲2,153	▲4,734	▲7,058	▲10,070



見通しに関する注意事項

当社の将来についての計画、戦略及び業績に関する予想と見通しの記述が含まれています。これらの情報は現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算出しており、今後の事業内容等の変化により実際の業績等が予想と大きく異なる可能性があります。